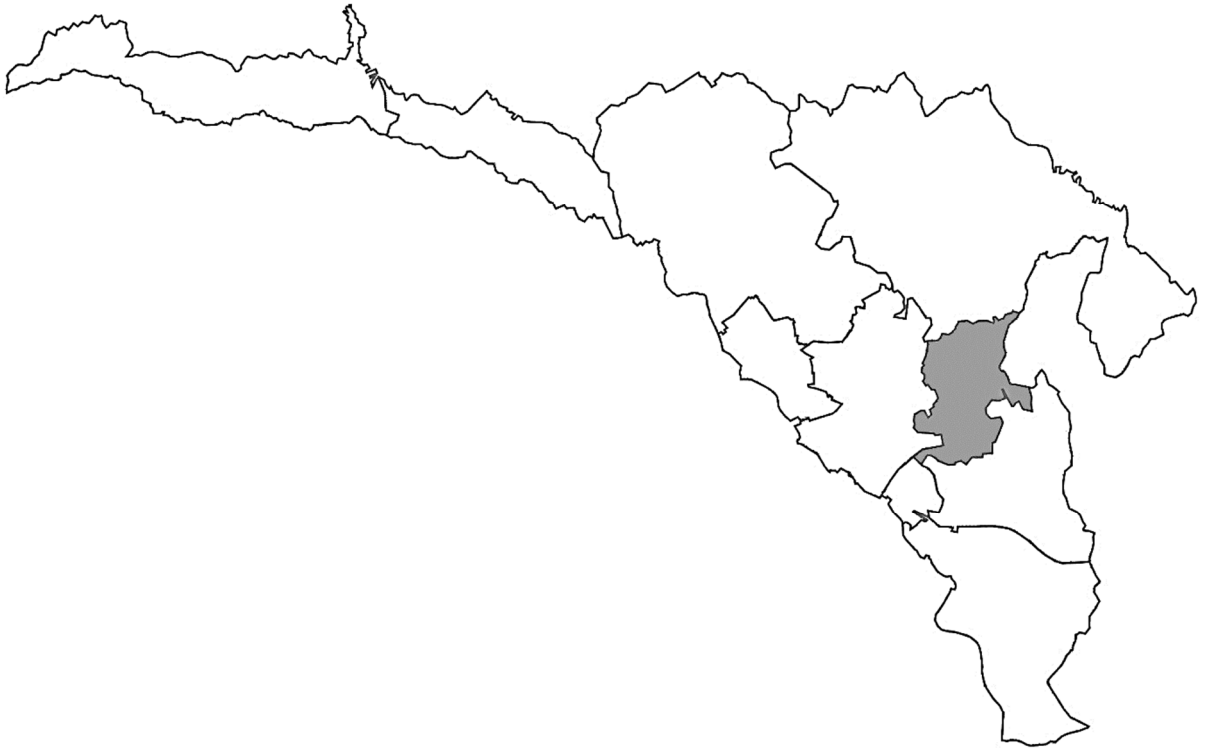


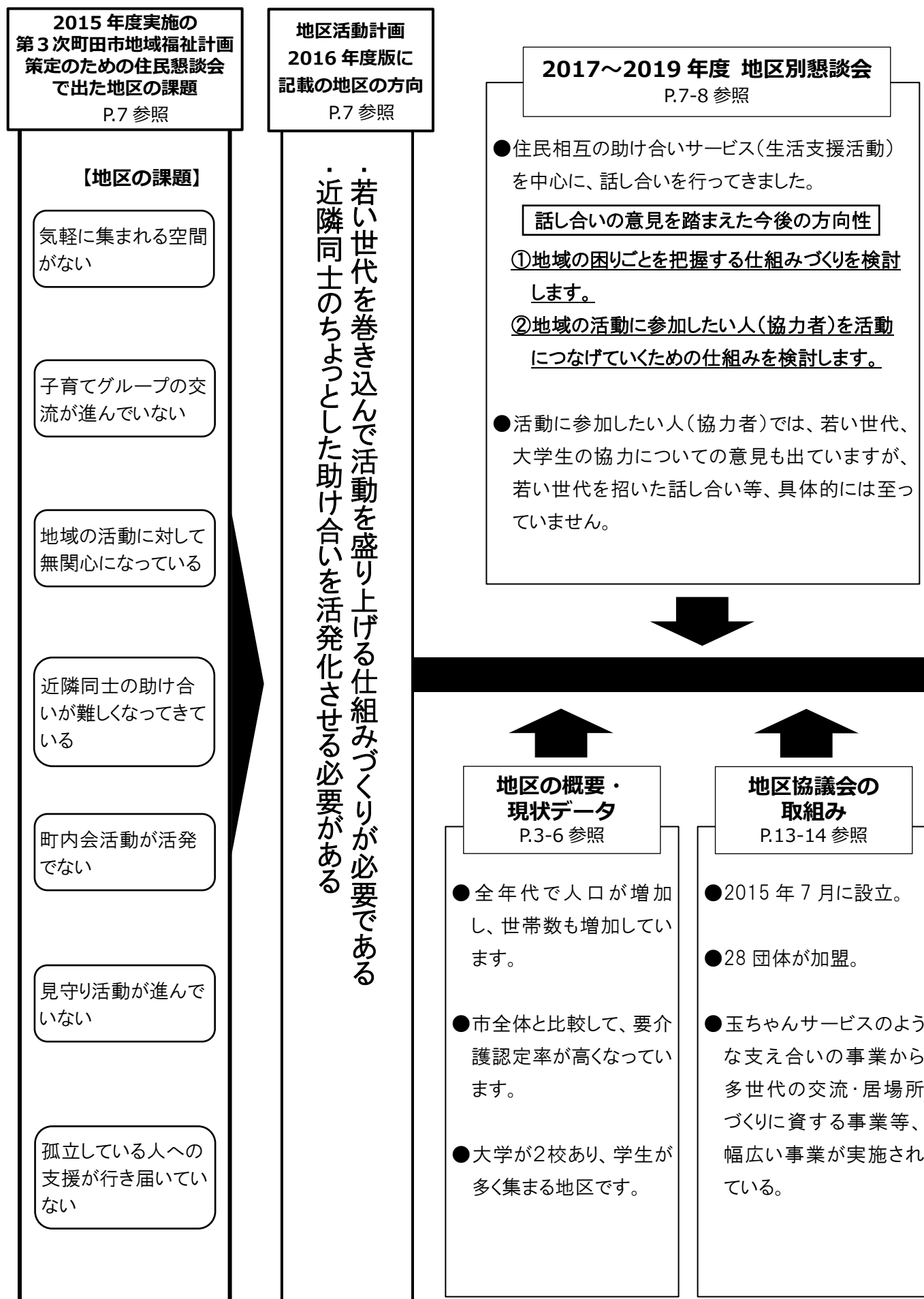
玉川学園・南大谷地区 基 礎 資 料



2022 年度 町田市地区別懇談会

基礎資料につきましては、開催日当日に使用する資料ではありません。
ご参加いただく皆様に事前にお目通しいただけるよう、地区の概況を
まとめた資料となっております。

1. 過去5年間の取組み等を踏まえた地区のまとめ



**2020 年度
地区別アンケート**
P.9-11 参照

「生活支援活動(玉ちゃんサービス、南大谷みいちゃんサービス)」をより良くするために必要なことについて

- 利用者、協力者を増やす上で、いずれも「気軽に(利用・参加)できる仕組みづくり」が重要視されています。

**アンケート結果を踏まえた
今後の方向性**

アンケート結果を生活支援団体に共有し、利用者や協力者の確保について検討します。

**5年間を通して
生まれた取組み**
P.12 参照

- 玉川学園エリア、南大谷エリアのそれぞれで住民相互の助け合いサービスがスタートしました。

**タウンミーティング
の結果** P.20 参照

住みたい(なりたい)
まちの姿について

- 「子ども」に関連する意見が多くなっています。
(居場所、子育て支援、多世代交流等)

**過去5年間の取組み等を踏まえ
見えてきたこと**

①若い世代など新たな担い手の育成・確保

- ・若い世代の活動への巻き込み方について、地区別懇談会では話し合いが来ていません。
 - ・地区内には大学があり、若い世代の協力が期待できます。
 - ・5年間を通して、子どもから高齢者まで人口が増加し、タウンミーティングでは子どもに関する意見が多く出ました。
 - ・市民アンケートでは、家の近くでできること、参加のきっかけがあること、仲間がいることが、重要な参加しやすい条件となっています。
- 以上のことから、気軽に参加しやすい仕組みや身近な活動場所等の検討をしながら、若い世代などの新たな担い手の育成・確保について考えていく必要があります。

②地域の支え合い活動の更なる促進

- ・地区別懇談会では、地域の支え合い活動(生活支援活動)を中心に話し合い、具体的に2つの生活支援活動がスタートしました。
 - ・地区別アンケートから、活動を進めるうえで「気軽さ」が重要だと分かりました。
 - ・市民アンケートからは、住民同士の協力関係を必要と考える人が多い傾向がみられます。
- 以上のことから、参加者(協力者)を増やす方法や利用しやすい仕組みの検討をしながら、地域の支え合い活動を更に促進することが大事だと考えられます。

市民アンケート調査
P.15-19 参照

- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人に、その理由や参加しやすい条件を聞いたところ、経済的な理由や時間よりは、「家の近くでできること」、「参加のきっかけがあること」、「仲間がいること」が重要であることがわかりました。
また、地域活動・ボランティア活動に参加していない理由として、「活動場所が無い、遠い」と回答した人は、全体と比較して高く、「家の近くでできること」を求める声が多い点との関係性も窺えます。
- 住民同士の協力関係が必要と考える人が多くなっていることや、地域の防災体制に対する満足度が低いことが、特徴的な結果となっており、これらは当地区の持ち家率が高いことが関係していると考えられます。

2. 地区の概要・現状データ

＜玉川学園・南大谷地区の該当町名＞

玉川学園 1～8 丁目、東玉川学園 1～4 丁目、南大谷、金井ヶ丘 2～3 丁目の一部
(旧玉川学園 5～6 丁目の一部)

(1) 5年間の地区の変化と市全体との比較

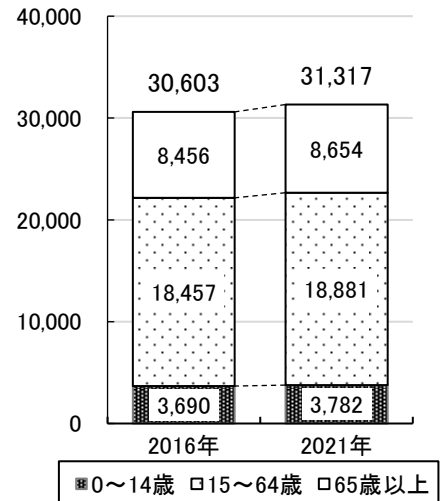
＜5年間の地区の変化＞

- 地区内総人口の増加 (P.4「地区内総人口」参照)
- 全年代で人口が増加 (P.4「人口」参照)
- 要介護認定者数の増加 (P.4「要介護認定者数」参照)

＜町田市全体との比較＞

- 市全体より要介護認定率が高い
(P.4「要介護認定者数」参照)
- 町内会・自治会連合会加盟団体への世帯加入率は、
玉川学園・南大谷地区が高い
(P.4「町会・自治会」参照)

地区別人口の変化



(2) 玉川学園・南大谷地区の概要

＜人口＞(2021年10月1日現在)

- 31,317人
(14歳以下の割合：12.1%、65歳以上の割合：27.6%)

＜特徴＞

- 地域のほとんどが丘陵地の中にあり、起伏豊かな地域である。
- 住民主体の活動団体が多く、2010年に地区社協が設立されている。
- 学園都市として高校が1校、大学が2校等、教育関連施設が多いが、
障がい者関係施設は少ない。

＜主な資源＞

- ・駅：1 駅（玉川学園前駅）
- ・高校・大学：高校1校、大学2校
- ・高齢者支援センター：1 か所
- ・あんしん相談室：1 か所
- ・子どもクラブ：2 か所

(3) 玉川学園・南大谷地区の現状データ

		玉川学園・南大谷地区		町田市全体	
		2016年度	2021年度	2016年度	2021年度
人口	地区内総人口	30,603人	<u>31,317人</u>	428,203人	430,607人
	0～14歳	3,690人 (12.1%)	<u>3,782人</u> (12.1%)	55,977人 (13.1%)	51,516人 (12.0%)
	15～64歳	18,457人 (60.3%)	<u>18,881人</u> (60.3%)	261,697人 (61.1%)	262,247人 (60.9%)
	65歳以上	8,456人 (27.6%)	<u>8,654人</u> (27.6%)	110,528人 (25.8%)	116,844人 (27.1%)
	75歳以上（再掲）	4,443人 (14.5%)	<u>4,856人</u> (15.5%)	53,117人 (12.4%)	63,573人 (14.8%)
世帯	世帯数	13,832世帯	14,740世帯	192,005世帯	202,737世帯
	世帯あたり人口	2.21人	2.12人	2.23人	2.12人
要介護認定者数	要支援1	284人	337人	2,773人	4,170人
	要支援2	191人	170人	2,057人	2,500人
	要介護1	335人	422人	4,327人	5,435人
	要介護2	270人	275人	3,398人	3,411人
	要介護3	176人	219人	2,394人	2,734人
	要介護4	167人	219人	2,224人	2,841人
	要介護5	171人	180人	2,057人	2,131人
	合計	1,594人	<u>1,822人</u>	19,230人	23,222人
参考:要介護認定率 ※1		18.9%	<u>21.1%</u>	17.4%	<u>19.9%</u>
認知症高齢者数 ※2		795人	579人 ※6	10,040人	7,286人 ※6
障がい者数 ※3	身体障がい	798人	754人	11,808人	11,544人
	知的障がい	189人	213人	3,117人	3,253人
	精神障がい	245人	336人	3,698人	5,378人
	合計	1,232人	1,303人	18,623人	20,175人
	人口に占める割合	4.0%	4.2%	4.3%	4.7%
自治会 ※4・	団体数	10	10	226 (309)	220 (310)
	加入世帯数	6,650世帯	6,437世帯	89,566世帯 (103,595世帯)	83,872世帯 (98,255世帯)
	加入率	48.3%	<u>44.1%</u>	47.0% (54.3%)	<u>41.6%</u> (48.8%)
団地	参考：団地人口 ※5	1,401人	1,283人	36,225人	32,997人
	参考：団地世帯 ※5	869世帯	864世帯	20,525世帯	19,905世帯

○人口、世帯数：各年10月1日現在（住民基本台帳に基づく）（総人口には年齢不詳1人を含む。）

○要介護認定者数、認知症高齢者数：各年10月1日現在

○障がい者数：2016年は10月17日現在／2021年の身体・知的は10月1日現在、精神は2月7日現在（実績値）

○町内会・自治会：4月1日現在

◆備考◆

※1 要介護認定率は参考数値（要介護者数に64歳以下も含むため）

※2 要支援1～要介護5を持つ方のうち、日常生活自立度Ⅱ以上の方

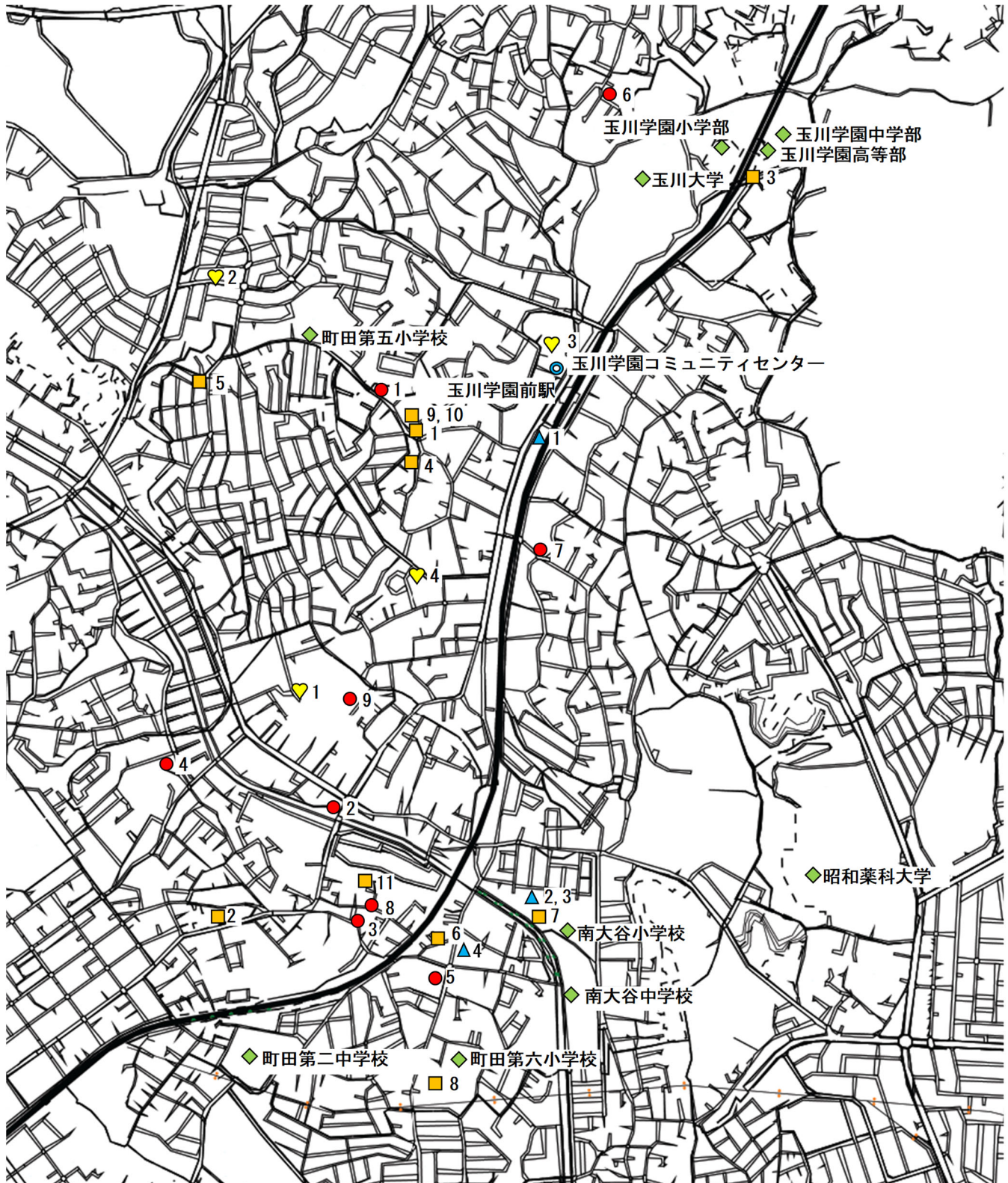
※3 障害者手帳の所持数

※4 町田市町内会・自治会連合会に加盟している団体数（ ）内は非連合を含めた値

※5 各年10月1日現在。玉川学園・南大谷地区の数値は、該当町名を含む団地人口・世帯の合計（本町田住宅（本町田・南大谷））。市全体は、東京都住宅供給公社と都市再生機構の団地人口・世帯の合計。

※6 2021年の認知症高齢者数は、新型コロナウイルス感染症の特例で、介護度をそのまま1年延長している方は主治医意見書が提出されていないことと、認定調査を実施していないため、前年よりも認定者数が少ない数値となっています。

3. 地区資源マップ



【地区資源リスト】

●子ども・子育て関係の施設(■)

<保育園>

- 1 玉川さくら保育園
- 2 まちっこ保育園

<幼稚園>

- 3 玉川学園幼稚部

<認定こども園>

- 4 認定こども園 玉川中央幼稚園

<家庭的保育室（保育ママ）>

- 5 ぐりーんぴーす家庭保育室
- 6 Aloha Keiki 家庭保育室

<学童保育クラブ>

- 7 南大谷学童保育クラブ
- 8 高ヶ坂学童保育クラブ
- 9 こころ学童保育クラブ

<子どもセンター・子どもクラブ>

- 10 玉川学園子どもクラブこころこころ児童館
- 11 南大谷子どもクラブ

●高齢者・介護保険関係の施設(●)

<相談>

- 1 町田第3 高齢者支援センター
- 2 南大谷あんしん相談室

<認知症グループホーム>

- 3 グループホームレガメ南大谷
- 4 いこいの郷 花梨・南大谷

<特別養護老人ホーム>

- 5 レガメ町田

<有料老人ホーム>

- 6 サニーステージ玉川学園
- 7 メディカルホーム グラニー玉川学園・町田
- 8 ベストライフ玉川学園
- 9 リハビリホームグランダ玉川学園

●障がい者・福祉関係の施設(▲)

<就労移行・継続支援>

- 1 第2 赤い屋根

<共同生活援助（グループホーム）>

- 2 しんわ南大谷第一ホーム
- 3 しんわ南大谷第二ホーム
- 4 グループホームさるびあ 1、2

●ふれあいサロン・子育てサロン(♡)

<ふれあいサロン>

- 1 ふれあいサロン埴の丘
- 2 ふれあいサロン花紬
- 3 ゆるやか健康塾
- 4 えんがわサロン

【資源マップ上記載の凡例】

●教育施設(◆)

●その他の公共施設(●)

4. 地区別懇談会の経過

(1) 玉川学園・南大谷地区 地区別懇談会※

① 第3次町田市地域福祉計画策定のための住民懇談会（2016年1月）

地区の課題	今後地区で検討していくこと
・気軽に集まれる空間がない ・子育てグループの交流が進んでいない ・地域の活動に対して無関心になっている ・近隣同士の助け合いが難しくなっている ・町内会活動が活発でない ・見守り活動が進んでいない ・孤立している人への支援が行き届いていない	・空き家・空き店舗を活用して集まる場所をつくる ・意見を交換・共有しやすい仕組みづくり ・多世代交流の促進 ・イベントの充実 ・情報共有・交換の促進 ・地域活動団体の増加・加入促進 ・大学・学生との連携 ・地域の人のスキルの活用 ・日常生活支援サービスの実施

地区別懇談会の結果を踏まえた「地区の方向」
・若い世代を巻き込んで活動を盛り上げる仕組みづくりが必要である ・近隣同士のちょっとした助け合いを活性化させる必要がある

（第3次町田市地域福祉計画 第2部地区活動計画より）

※ 2017年度以降、第3次町田市地域福祉計画、町田市社会福祉協議会の第四次地域福祉活動計画に基づいて、市内10地区で地区別懇談会を開催しています。

② 2017年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：
近隣とのつながりから、地域の「たすけあい」「支え合い」活動へ

話し合いのテーマ： 「見守り」、「居場所づくり」、「生活支援」の 3つのテーマを5W1Hで話し合いました	地区別懇談会の結果を踏まえた、 つながりづくりに向けた方向性とポイント				
【ご意見（生活支援の抜粋）】 なぜ：高齢者が日常生活に困りごとがあるため 誰のために：高齢者、高齢者を支援している家族 いつ：すぐスタートする、ちょっと困りごとが出た時 どこで：地区社協、町内会・自治会 誰が：近隣住民、学生、いずれ支援を受ける立場を 自覚して自分で どのように：学生の参加（授業の一環）、市の協働、 地域の資源を使う 等	<table border="1"> <tr> <td>方向性</td><td> ・イベント等を活用した地域の子どもと「子ども110番の家」の住民の交流の促進 ・多様な居場所づくりを目指した空き家・個人宅の活用 ・地区全体における住民相互の助け合いサービスの促進 </td></tr> <tr> <td>ポイント</td><td> ・「子ども110番の家」の子どもへの周知（学校等の関係機関との連携） ・空き家状況の把握、社会資源のリスト化等、ニーズに合った情報発信 ・住民相互の助け合いサービスの促進のための関係機関への協力依頼 </td></tr> </table>	方向性	・イベント等を活用した地域の子どもと「子ども110番の家」の住民の交流の促進 ・多様な居場所づくりを目指した空き家・個人宅の活用 ・地区全体における住民相互の助け合いサービスの促進	ポイント	・「子ども110番の家」の子どもへの周知（学校等の関係機関との連携） ・空き家状況の把握、社会資源のリスト化等、ニーズに合った情報発信 ・住民相互の助け合いサービスの促進のための関係機関への協力依頼
方向性	・イベント等を活用した地域の子どもと「子ども110番の家」の住民の交流の促進 ・多様な居場所づくりを目指した空き家・個人宅の活用 ・地区全体における住民相互の助け合いサービスの促進				
ポイント	・「子ども110番の家」の子どもへの周知（学校等の関係機関との連携） ・空き家状況の把握、社会資源のリスト化等、ニーズに合った情報発信 ・住民相互の助け合いサービスの促進のための関係機関への協力依頼				

（地区活動計画2017年度版より）

③ 2018 年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：
ふるさと玉川学園・南大谷 ～隣近所とのつながりと支え合いを考える～

話し合いのテーマ：
支え合い活動に参加したい人たちを、
活動につなげるためにできること

【ご意見（抜粋）】

- ・近所づきあいから活動につなげる
- ・近所のつながりづくり
- ・活動の周知・見える化
- ・日頃のあいさつ・声かけ
- ・活動時間・内容の検討
- ・活動に誘う
- ・活動者がウェルカム精神を持つ 等

**地区別懇談会の結果を踏まえた、
今後の方向性と具体的取組み**

方向性	・地域における見守り活動の推進 ・活動に参加したい人を活動につなげていくためのしくみづくり
具体的取組み	・子ども 110 番の家同士の横のつながりに向け、小規模での情報交換会の開催 ・ニーズを活動につなげる ・マンパワー・推進員を設置する

（地区活動計画 2018 年度版より）

2018 年度の地区別懇談会は、町田第3高齢者支援センターと共催し、地区別懇談会に先駆けて町トレ（町田を元気にするトレーニング）の参加者に地域の担い手の希望に関するアンケートを行い、その結果をもとに話し合いを行いました。

④ 2019 年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：
ふるさと玉川学園・南大谷 ～ご近所同士でできる支え合い～

話し合いのテーマ：
地域の支え合いのために、自分ができること

【ご意見（分類）】

- ・日常生活の中での支援（家事・家に関すること）
- ・趣味活動・コミュニケーション
- ・見守り・防犯
- ・外出・移動支援
- ・情報発信・提供
- ・外出・移動支援
- ・子どもへの支援
- ・居場所づくり

**地区別懇談会の結果を踏まえた、
つながりづくりに向けた方向性と具体的取組み**

方向性	・地域の困りごとを把握するしくみづくりを検討します。 ・地域の活動に参加したい人を活動につなげていくためのしくみづくりを検討します。
具体的取組み	・地域の困りごとを把握し関係機関とつなげるしくみの実施方法の検討と担い手を育成します。 ・引き続き生活支援団体への支援を継続します。

（地区活動計画 2019 年度版より）

⑤ 2020年度 玉川学園・南大谷地区 地区別懇談会等についてのアンケート

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため10地区すべてで地区別懇談会の開催を中止し、地区ごとにアンケート調査を実施しました。

当アンケート調査では、地域住民同士で互いに支え合う仕組みである「生活支援活動（玉ちゃんサービス、南大谷みいちゃんサービス）」をより良くすることを目的とし、そのために必要なこと等を聞いています。

図表 回答者の年齢

	61件回答
1 10代	0人
2 20代	0人
3 30代	1人
4 40代	5人
5 50代	8人
6 60代	10人
7 70代	26人
8 80歳以上	9人
無回答	2人

図表 回答者の所属団体（複数回答）

	61件回答
1 町内会・自治会	24人
2 民生委員・児童委員	15人
3 青少年健全育成地区委員会	9人
4 NPO法人	6人
5 ボランティア団体	10人
6 ふれあいサロン・子育てサロン	4人
7 小・中学校	6人
8 小・中学校PTA	1人
9 老人クラブ	6人
10 障がい当事者会・家族会	3人
11 社会福祉法人	1人
12 保育園・幼稚園	3人
13 高校・大学	0人
14 地区協議会	6人
15 自主グループ	6人
16 その他	4人
無回答	2人

【地区別懇談会についてのご意見】

●参加しやすい日時

「土曜日の午後」が最も多く、次に「平日（月曜～金曜）の午前」が多くなっています。

図表 参加しやすい日時（複数回答）

	61件回答
1 平日（月曜～金曜）の午前	27.9%
2 平日（月曜～金曜）の午後	24.6%
3 土曜日の午前	32.8%
4 土曜日の午後	26.2%
5 日曜・祝日の午前	24.6%
6 日曜・祝日の午後	26.2%
無回答	11.5%

●地区別懇談会で取り入れてみたいテーマ（自由回答の抜粋）

<地域交流・つながりづくり>

- ・若い年代との地域交流の在り方。
- ・繰り返しての話し合いは重要かと思いますが、やはり近隣住民との絆を強くする。
- ・地区活動にあまり興味をもたない方々をお誘いできるイベント（気軽に参加できるもの）。

<高齢者への支援>

- ・高齢者の健康づくり。
- ・パソコン、スマートフォン、ネットの出来ない高齢者に対してどのような支援が出来るか。

<地域づくり>

- ・町全体がせかせかしない、ゆったりとした時間が流れているような空間作り。
- ・コミュニティの活性化。

<地区別懇談会について>

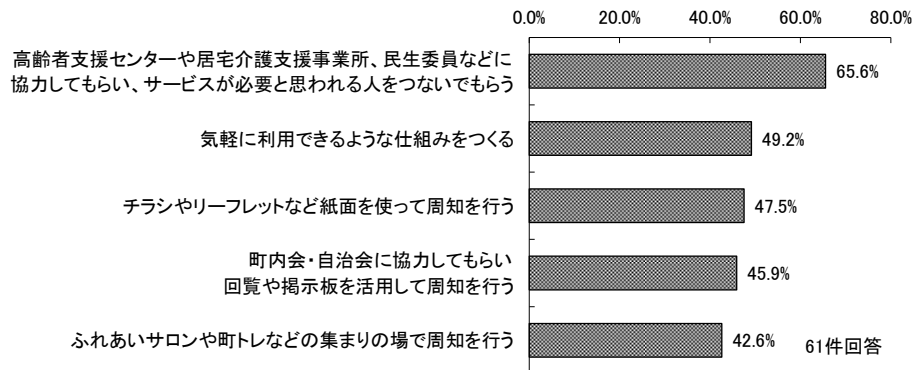
- ・地区別懇談会に集まる人数を多く確保する為にどうすべきか。
- ・各活動団体の具体的活動内容と成果を知りたい。

【「生活支援活動」をより良くするために必要なことについて】

●生活支援活動の利用者を増やすために必要なこと

「高齢者支援センターや民生委員からサービスが必要と思われる人をつないでもらう」が、6割半ばとなっています。

図表 生活支援活動の利用者を増やすために必要なこと（複数回答）



●生活支援活動の利用を増やすために、具体的に必要だと思うこと（自由回答の抜粋）

<利用しやすい雰囲気づくり・つながりづくり>

- ・何でも相談出来る雰囲気作り、環境が何より必要かと思われる。
- ・サービスが必要な方々を把握できるよう、人とのつながりで気軽に利用できるような仕組み。
- ・日頃からの住民交流、口コミが一番だと思います。
- ・ご近所とのあいさつを始めとして、顔を見て（笑顔）話すこと。
- ・各地域での見守りから信頼関係づくりをしていく事が必要だと思う。

<周知・周知方法>

- ・周知はできているのか。
- ・南大谷あんしん相談室が、地域住民の方が気軽に相談出来ることを周知されたいと思います。
- ・民生委員の方々に、チラシやリーフレットをポスティングしてもらおう。
- ・人と人との「さりげない関係」を日常的に作り、利用を増やしていく。

<関係機関との連携方法>

- ・高齢者支援センター、居宅介護支援事業所、民生委員の活動が主流となるのでは。形より実質的な支援が必要。
- ・生活支援を必要としている人の情報を、高齢者支援センター等につなぐ方法の検討。
- ・きめこまかな対応が出来るよう、情報を収集できるコミュニケーションの場が必要。

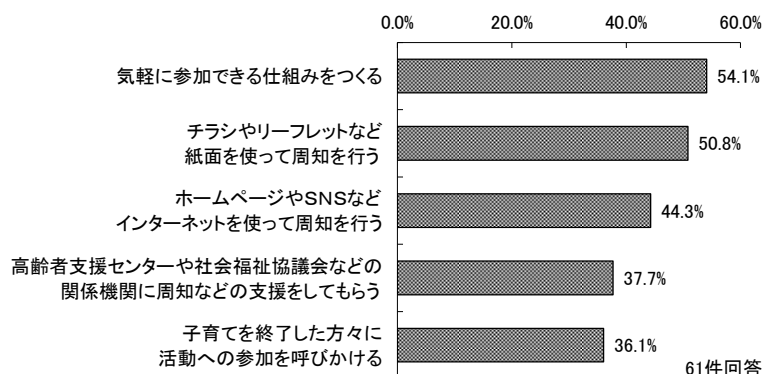
<利用者への配慮>

- ・男性が嫌な女性利用者もいると思うので、その辺りにも対応が必要。
- ・体の不自由な高齢の方、障がいがある方と、直接会う機会の多い方々（介護支援団体や支援事業所、各障がい団体の方々）の協力で、その方々にあった利用、やってみたい事、参加可能な事をあらい出してプランが作れて、広められたら良い。

●生活支援活動の協力者を増やすために必要なこと

気軽に参加できる仕組みをつくること、チラシ等の紙面での周知が5割台となっています。

図表 生活支援活動の協力者を増やすために必要なこと（複数回答）



●生活支援活動の協力者を増やすために、より具体的に必要だと思うこと（自由回答の抜粋）

<情報提供>

- ・周知不足。また具体例をPRする等、活動がある事を知ってもらう。またニーズの具体化も、見えるようにしないとイケない。
- ・高齢者支援センター、ケアマネジャー等を通じ、より細かく情報を得られれば支援活動も活発になると思います。個人情報なので、本人の気持ちが一番大切。（支援を受ける側の気持ち重視）
- ・当自治会でも実際にチラシを見て申し込んだ方（お手伝い）がいました。そういった方の口コミが強いと思います。
- ・これらの人達は「個人情報」との関係が発生する。町内会会長としては手を差しのべることに戸惑う。市主催で講演会を開催する。

<仕組みづくり>

- ・青年、壮年の協力者が参加しやすい仕組み。
- ・会合などで意見交換しながら皆で決めて行く。
- ・ボランティアによる支援も大切だと考えるが、些少であっても謝礼金が出せるとよいと考える。
- ・協力者と希望者のマッチングをしてくれる仕組みづくりが必要。
- ・登録制にしてハードルを低く、誰でも気軽に、を強調する。
- ・最初は町トレの集まりやサロンで人間関係をつくり、活動に誘う。

アンケート結果を踏まえた今後の方向性・具体的取組み

方向性	アンケート結果を生活支援団体に共有し、利用者や協力者の確保について検討します。
具体的取組み	引き続き生活支援団体の支援を行います。

（地区活動計画 2020 年度版より）

(2) 5年間を通して生まれた取組み

- 玉川学園・南大谷地区では、2つの生活支援活動が展開しています。
- 「玉川学園地区社協 玉ちゃんサービス」は、2017年度に本格稼働し、掃除等の家事の補助、庭の草むしり等の日常のちょっとした困りごとのお手伝いを続けています。
- 「南大谷みいちゃんサービス」は、町田第3高齢者支援センターや玉ちゃんサービスの協力を得て、2020年1月7日から、南大谷地区で日常生活支援サービスとして『玉ちゃんサービス南大谷』がスタートし、2021年4月に名称を『南大谷みいちゃんサービス』に変更し展開しています。



5. 地区協議会の取組み

(1) 設立日・構成団体

＜設立日＞ ●2015年7月16日（市内6地区目） ＜構成団体＞ ●玉川学園・南大谷地区町内会・自治会連合会（10町内会・自治会）、青少年健全育成玉川学園地区委員会、青少年健全育成町田東地区委員会、町田第二地区民生委員児童委員協議会、町田市消防団第1分団、玉川学園地区社会福祉協議会、町田第五小学校、町田第六小学校、南大谷小学校、南大谷中学校、町田第二中学校、玉川大学、昭和薬科大学、玉川さくら保育園、玉川中央幼稚園、玉川学園商店会、玉川学園南口商店会、玉川学園地区まちづくりの会、芝生の会、ころころ児童館、NPO 法人レ・マーニ、NPO 法人桜実会、玉川学園・南大谷地域フラッグアート実行委員会、玉川学園コミュニティセンター、町田市社会福祉協議会、玉川学園コミュニティセンター運営委員会、町田第3高齢者支援センター、わあくす（28団体）

(2) 地区協議会のこれまでの主な取組み

事業名	概要	詳細（事業目的など）
子どもが遊べる広場事業	・キャッチボールができる環境づくり ・ボールの投げ方指導 ・三角ベースの実施	公園や広場で、子どもたちがルールを守り安全にキャッチボールができるよう環境を整えることで、外遊びの楽しさを知ってもらい、子どもたちの健全な育成と体力の向上を図る。
玉南・玉ちゃんサービス事業	・玉ちゃんサービス案内リーフレット作成 ・南大谷地域での新たなプロジェクトの立ち上げ準備	日常生活上の困りごとを手助けすることにより、自分らしく自立した生活を取り戻すことができるように、子育て世代から高齢者まで全員を対象にした事業を行う。
街かど・なんでも相談室	・地域住民が相談に訪れることができる場づくり	商店会の店舗の休日を利用して、定期的に地域住民が相談に訪れることができる場を作ること、住みよい街づくりを実現する。
広報事業	・地区協議会ニュース第9号10号11号の発行 ・ホームページの充実	地区の住民に地区協議会の活動状況をPRし、理解と協働を促進する。
玉川学園盆踊り「玉川音頭」の復活事業	・盆踊り大会の実施	玉川学園に暮らす大人も子どももみんなが楽しめる盆踊りを復活させ、かつて親しまれた「玉川学園音頭」を現在の住民に広く知ってもらい、多世代の住民が交流することで、地域に愛着を持てもらう。
おむすび食堂	・料理教室型地域の多世代交流のための食堂の実施	地域の大人と子ども、および大学生と一緒に料理を作り、一緒に食事を取る。地域の多世代交流拠点として実施し、地域とつながり、ふれあいや助け合いが自然と生まれる「みんなの居場所作り」を目指す。
はなびら市地域交流事業	・はなびら市のチラシ作成 ・防災食アレンジ料理の提供	町田市の桜まつりの一環として開催する玉川学園花びら市に参加し、地域内での交流を図る。
まちづくり顕彰事業	・街の景観向上に貢献した住宅の所有者に感謝状と記念品を贈呈	玉川学園・南大谷地区の住宅地で、街並み景観に貢献する個人住宅・分譲住宅地・集合住宅などを顕彰し、地域の景観向上の為に普及啓発を語り、豊かな住環境づくりを目指す。
玉南地区・特殊詐欺防止策事業	・地域で活動する方や地域のイベントを活用した特殊詐欺についての周知活動。	住民のつながりや地域のイベントを活用した特殊詐欺防止活動。

事業名	概要	詳細（事業目的など）
文教・地域交流事業	・玉川大学教育博物館見学 ・玉川大学プラネタリウム 小学校理科授業支援 ・玉川大学 TAP 研修 ・昭和薬科大学薬草園研修 ・地域住民との交流会の実施 ・子どもまつり協賛 ⇒さくら茶会に変更（21/3/8）	地域資源の大学等を活用して地区協議会の構成団体や地域住民の交流を図ることで、地区内の交流を活性化する。
空家にしないための啓発事業	・空家対策についての情報パンフレット作成、配布。	安心して暮らせる地域であり続けるための住環境について、意識と知識を共有し広める。
玉南・玉ちゃんサービス事業（玉川学園地区）	・玉ちゃんサービス案内チラシ作成。 ・交流会の実施。	日常生活上の困りごとを手助けすることにより、自分らしく自立した生活を取り戻すことができるように、子育て世代から高齢者まで全員を対象にした事業を行う。
葉っぱバンク事業	・落葉掃除で集めた落葉で腐葉土をつくり協力者に還元。	落葉をゴミにせず、腐葉土にすることで掃除に価値を生み出すことができる。長期的には、地域の緑化保存の意識を高め地域の魅力や活性化につなげる。
ご近所さん会事業	・防災や防犯、さりげないご近所の見守りあい、お困りごとやお楽しみごとなどの情報交換の機会を設ける。	「ご近所さん会・お庭カフェ」のデモンストレーションを実施。その後、随時実行してくださる方を募り地域に広める。
認知症の人と家族を地域で支えるネットワークづくり事業	・認知症の人々及びその家族が地域で生活を続けていくため、地域で支え合う環境をつくる。	認知症に関する正しい知識・問題を地区協議会各団体で共有し、認知症患者とその家族を支えるシステムづくり。
玉学野外アート展事業	・秋のアート週間として、彫刻・立体造形を野外の玉川学園 3 丁目子供広場に展示。	大人から子供まで、地域の人々にアートを楽しんでもらう。
地域防災に関する事業	・A R 防災訓練を実施し、防災訓練の質的向上を図る。	災害疑似体験を行うことで、水害やその対策への防災意識の向上を図る。
多世代居場所づくり事業	・まちの縁側一丁目の加々美さん家を地域の多世代居場所として運用。	空き家を活用し、ご近所の方々がお茶したり、おしゃべりしたり、誰もが気軽に立ち寄れる、ホッとできる居場所をつくる。
街の図書館「玉ちゃん図書館」事業	・地区社協の交流室に図書館を開設し、地域住民からの寄贈本の貸出を行う。	本のリユースと共に地域住民の居場所づくり、多世代交流を行う。

6. 市民アンケート調査の地区別集計結果

（仮称）町田市地域ホッとプラン策定の基礎資料とするため、地域福祉に関する生活実態やご意見などを把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

調査対象：18 歳以上の町田市内在住者 2,000 人

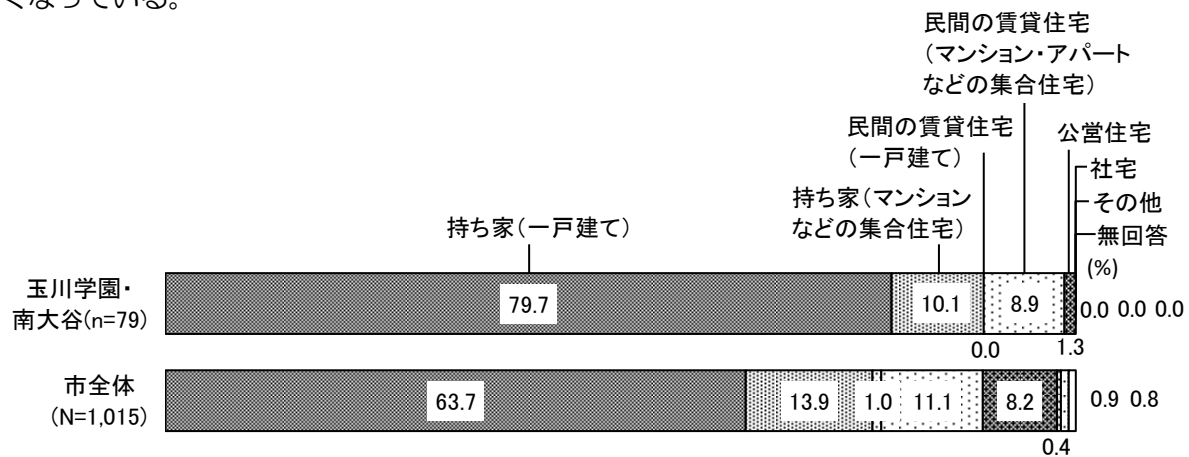
調査時期：2020 年 2 月から 3 月

（1）基本属性

- ・ 年齢は平均 59.6 歳（全体は 58.6 歳）、職業は就労していない人が 48.1%（全体は 43.8%）である。

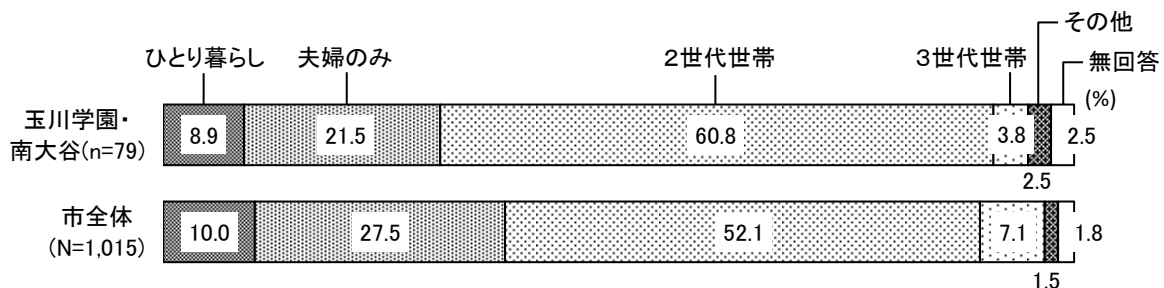
◆住まいの形態

- ・ 住まいの形態は「持ち家（一戸建て）」が 79.7%を占めており、全体と比較すると 16.0 ポイント高くなっている。



◆家族構成

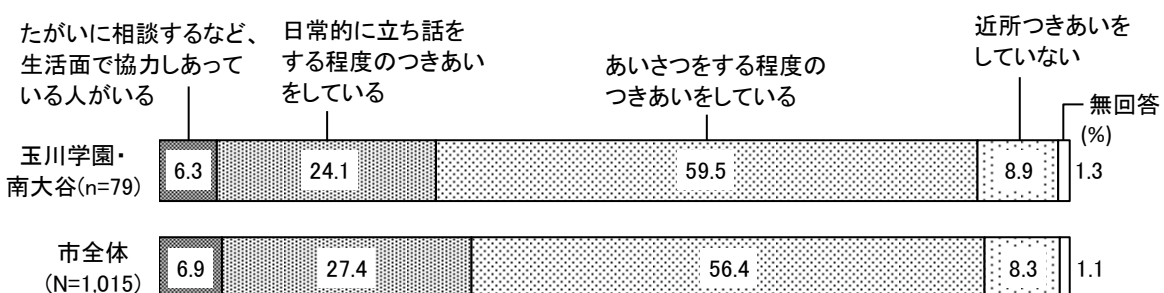
- ・ 家族構成は「2世代世帯（60.8%）」が6割を占め、全体と比較すると 8.7 ポイント高くなっている。



（2）地域での暮らし

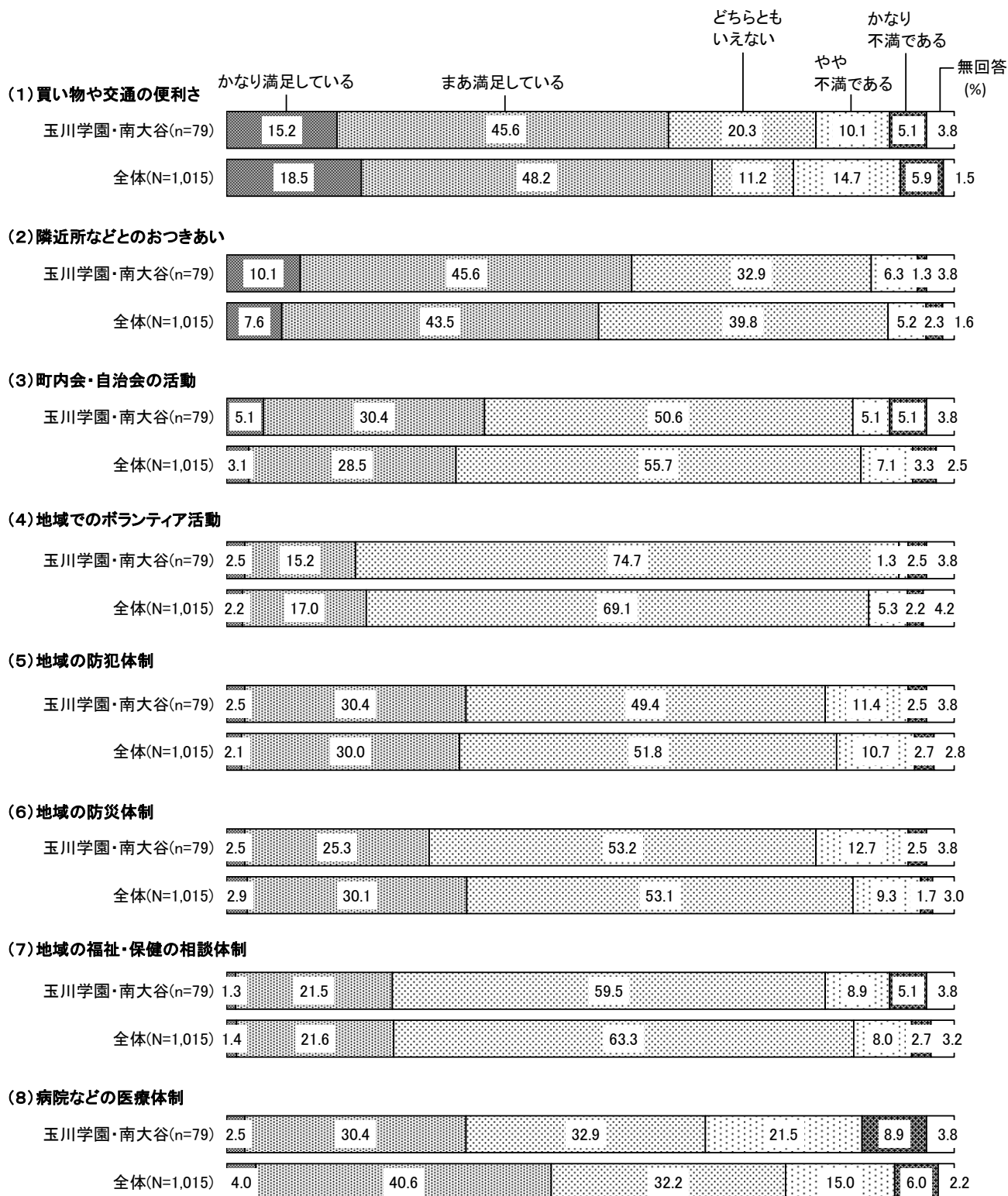
◆近所つきあいの程度

- ・ 近所つきあいの程度は「あいさつをする程度のつきあいをしている」が 59.5%を占めている。



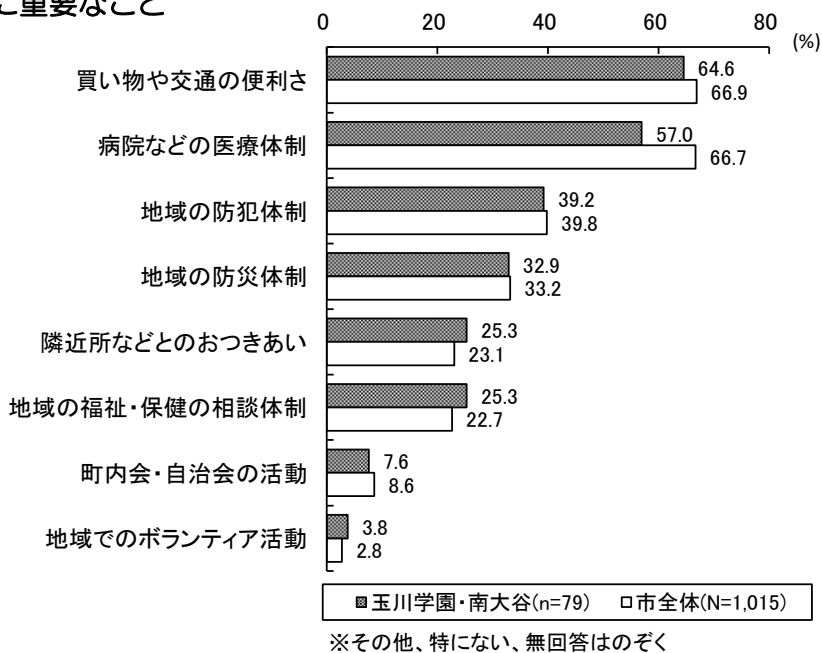
◆地域の暮らしやすさについての満足度

- ・ 地域の暮らしやすさについて、「かなり満足している」と「まあ満足している」を合計した割合は、『買い物や交通の便利さ』、『隣近所などのおつきあい』で、5割を超えている。
- ・ 『隣近所などのおつきあい』、『町内会・自治会の活動』は、全体と比較しても満足度が高い。
- ・ 一方で、『地域の防災体制』、『地域の福祉・保健の相談体制』では2割台、『地域でのボランティア活動』では2割未滿となっており、全体と比較してもこれらの項目については満足度が低い。
- ・ 『病院などの医療体制』は全体と比較すると、満足度が低い。



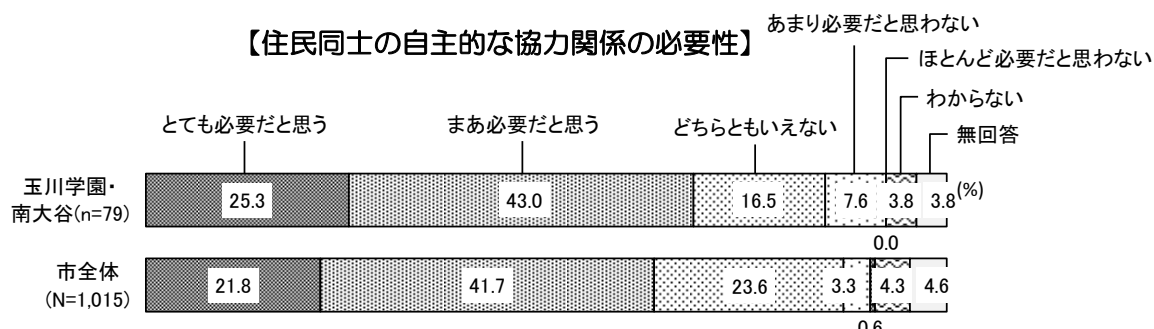
◆地域で安心して暮らしていくために重要なこと

- ・ 地域で安心して暮らしていくために重要なことは、上位3項目は全体と同様である。
- ・ また、「隣近所などのおつきあい」、「地域の福祉・保健の相談体制」、「地域でのボランティア活動」が、全体と比較すると高い。
- ・ 一方で、「病院などの医療体制」は57.0%であり、全体を9.7ポイント下回っている。

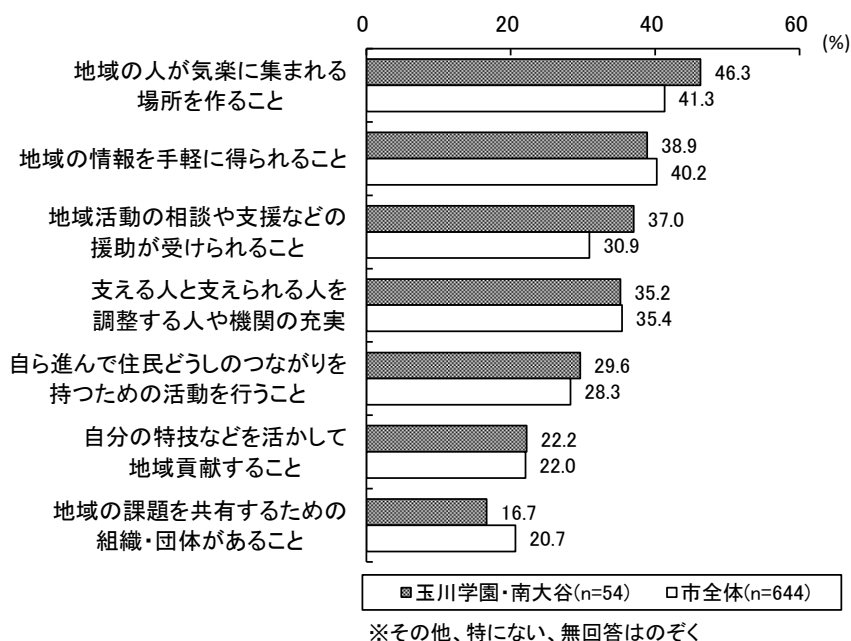


◆住民同士の自主的な協力関係の必要性、協力関係をつくるために必要なこと

- ・ 住民同士の自主的な協力関係の必要性について、「とても必要だと思う」と「まあ必要だと思う」と回答した人の合計は78.3%であり、全体を4.8ポイント上回っている。また、必要だと思うと回答した人に、必要なことをたずねたところ、「地域の人が気楽に集まれる場所を作ること」が最も多く、「地域の情報を手軽に得られること」が続いている。次いで、全体4位の「地域活動の相談や支援などの援助が受けられること」が3位となり、全体を6.1ポイント上回っている。



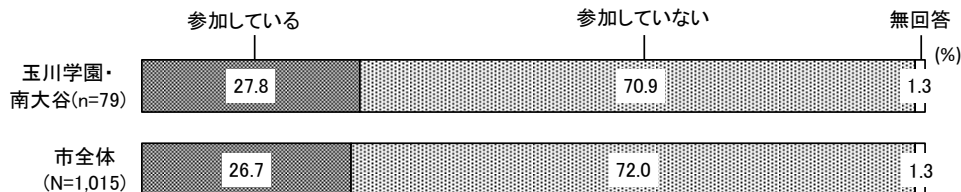
【協力関係をつくるために必要なこと】〈必要だと思う人〉



(3) 地域活動・ボランティア活動

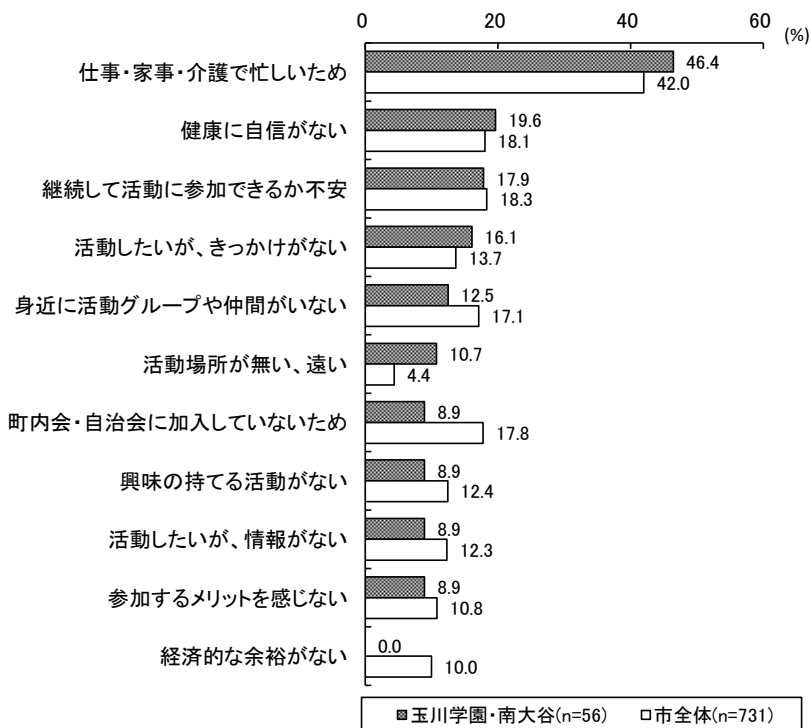
◆地域活動・ボランティア活動への参加状況

- 地域活動・ボランティア活動に参加している人の割合は 27.8%であり、全体を 1.1 ポイント上回っている。



◆地域活動・ボランティア活動に参加していない理由<参加していない人>

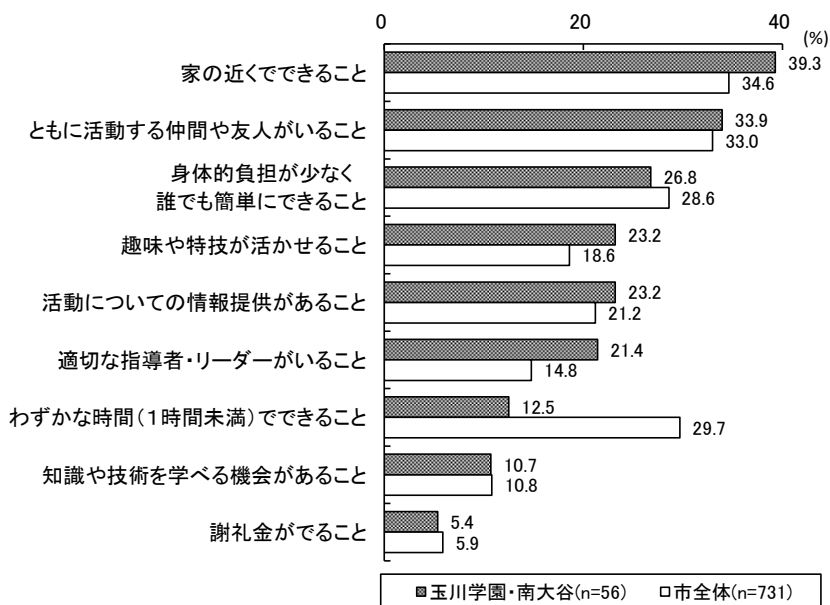
- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人にその理由をたずねたところ、「仕事・家事・介護で忙しいため」が 46.4%と最も多く、全体を 4.4 ポイント上回っている。
- また、「活動場所が無い、遠い」と回答した人は 10.7%となっており、全体を 6.3 ポイント上回っている。
- 「経済的余裕がない」は 0.0%となっている。



※その他、無回答はのぞく

◆地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件<参加していない人>

- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人に参加しやすい条件をたずねたところ、上位2項目は全体と同様である。
- また、「家の近くでできること」、「趣味や特技が活かせること」、「適切な指導者・リーダーがいること」が全体を大きく上回っている。
- 一方で、全体3位の「わずかな時間（1時間未満）でできること」は全体を大きく下回っている。

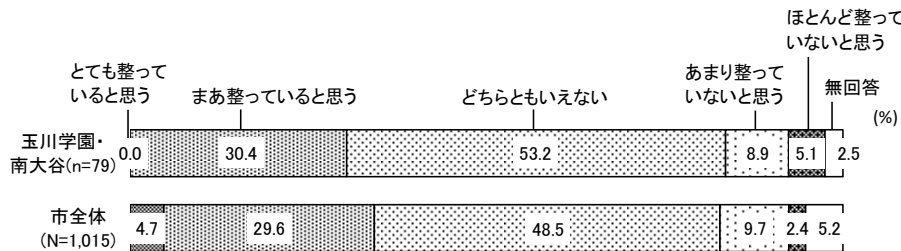


※その他、特になし、無回答はのぞく

(4) 福祉サービス、福祉施策

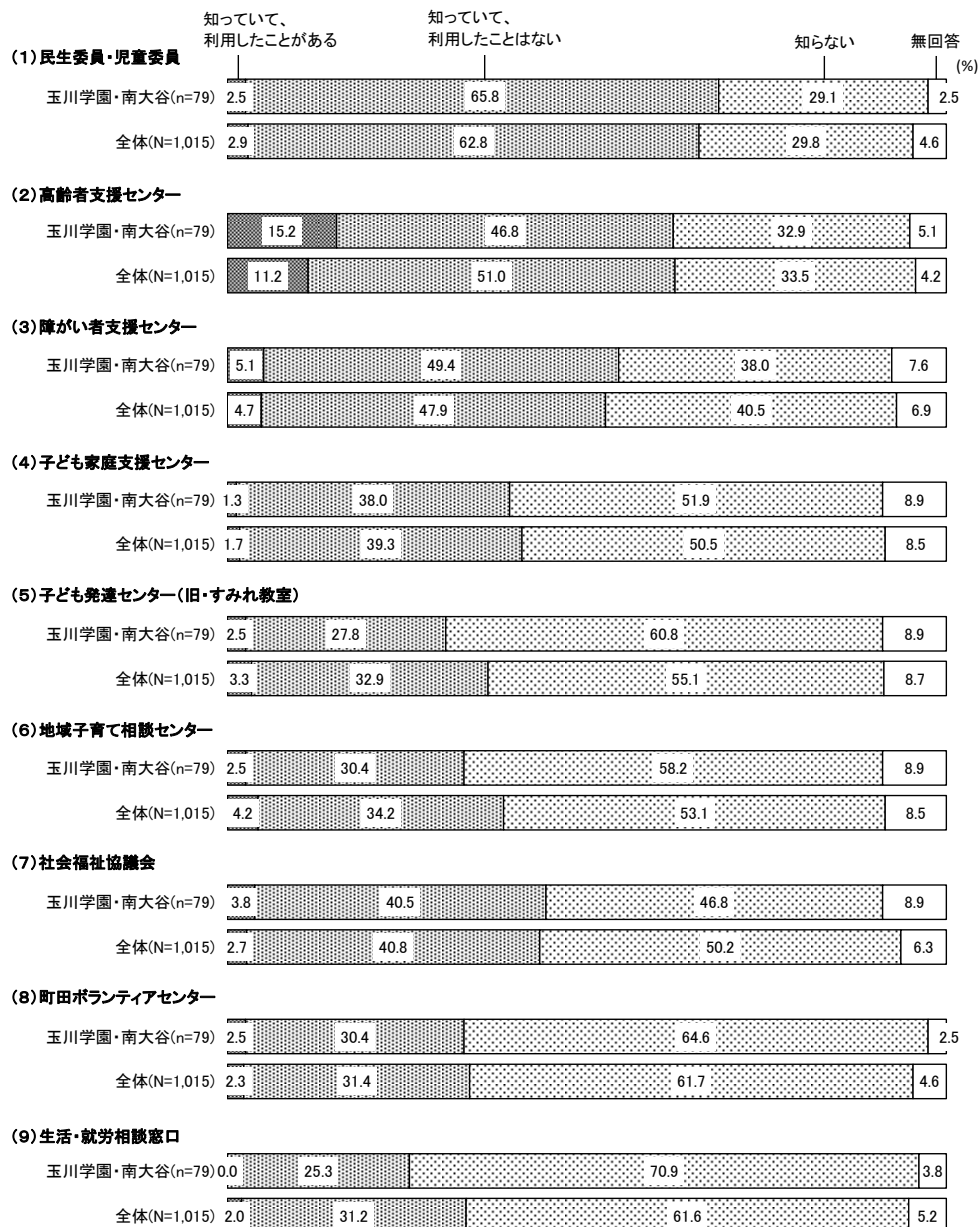
◆町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況

- 町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況は、「とても整っていると思う」が0.0%で「まあ整っていると思う」と合計しても30.4%となっている。合計した割合は全体を3.9ポイント下回っている。



◆福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度・利用状況

- 福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度（「知っている、利用したことがある」と「知っている、利用したことがない」の合計）は、『民生委員・児童委員』、『高齢者支援センター』では6割を超え、『障がい者支援センター』では5割を超えているが、『生活・就労相談窓口』では2割台となっている。
- 全体と比較すると、子ども関連の『子ども家庭支援センター』、『子ども発達センター』、『地域子育て相談センター』は、いずれも全体を下回っている。



7. タウンミーティング（地区別意見交換会）の結果

（１）実施目的・参加人数・主な参加者

<実施目的>

●2022年4月から始まる新たな市の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定に向けて、2019年に町内会・自治会や地区協議会を対象の中心として、市内10地区でタウンミーティング（地区別意見交換会）を実施し、それぞれの地域にお住まいの方と一緒に、住んで良かったと思えるような、まちだの未来を考えました。

<参加人数（グループ数）>

●13人（3グループ）

<主な参加者>

●町内会・自治会、まちづくりの会、環境ボランティア、青少年健全育成委員。

（２）住みたい（なりたい）まちの姿とご意見

① グループごとの話し合いから出た「住みたい（なりたい）まちの姿」

【Aグループ】多くの世代のつながりとみどりの中で安心できるまち

【Bグループ】ステキな大人が見守ってくれるまち

【Cグループ】町田の良さを活かした、人と人とがつながれるまち

② タウンミーティングでいただいたご意見

<子ども・子育て支援>

- ・子どもが自由気ままにできる環境があると良い。
- ・子どもが上級生・下級生同士の触れ合いがあると良い。
- ・（駄菓子屋のように）子どもが集まれる場所があると良い。
- ・児童館がたくさんあると良い。
- ・子どもが気軽に勉強できる場所があると良い。
- ・地域で子育て世代をサポートできる環境があると良い。
- ・親・大人が子どもの見守りにしっかり向き合うべき。

<多世代交流>

- ・高齢者施設と子ども施設で近くで互いに触れ合えると良い。
- ・多世代の交流の場が欲しい。
- ・大人も子どもも一緒にいるイベントがあると交流が生まれて良い。

<地域活動>

- ・ひとり暮らしの高齢者同士が支え合う仕組みづくり。
- ・地域活動の担い手・参加者にインセンティブをつけた方がよい。

<居場所・イベント>

- ・高齢者が外でくつろげる場所があるとよいのでは。
- ・外を楽しむ企画・場所があると良い、制約が多い。
- ・地域の催し物（お祭りなど）をもっと増やすと良い。

<生活環境>

- ・自然・緑に触れられる場所があると良い。
- ・「医」・食・住が便利だと良い。
- ・交通の利便性があると良い。
- ・自転車が安全に通行できると良い。

<地域意識>

- ・地域のほこりを残したい、子どもたちへ残したい。
- ・町田市民自身が町田の財産（自然など）を把握できていない。

<街づくり>

- ・（若者は坂の上）高齢者は坂の下に住めるような仕組みづくり。

（出典：各種ワークショップ等の取組み状況報告より）

URL：https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/sinokeikau/machida_miraizukuri_vision2040/kyodokento20201101.html

8. 過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）

- ・ 2021 年度の地区別懇談会の開催にあたり（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により 2022 年度に延期）、参加希望者の方に事前アンケートとして、過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）をたずねました。
- ・ 以下は、回答いただいたご意見を表現はそのまま、主な意見を抜粋して掲載しています。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
人(世帯)	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 若い子育て世代の転入。 ・ 若いご家族が増えた。 ・ 子どもが多くみられる。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 若い人達の移住が進んだ。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 孤立している高齢者がいる。 ・ 超高齢化、独居世帯が増えて、馴染みの友人、知人が地域からいなくなって、暮らしの孤独化。情報もなし。 ・ 過疎化の進行。 ・ ホームレス状態の方は増えているかもしれない。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 住宅地ならではの地域への無関心が進んでいる。 ・ コロナにより町内会の同じ班でもどのような方が住んでいるのかわからない。 ・ 高齢化が進み多くの障害が発生した。
つながり、意識	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 高齢者に対する問題提起の機会が増えた。（共有機会の増加） ・ コミュニティの充実。 ・ 親子の散歩への声かけ。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 高齢者の増加により近所付き合いが希薄になった。 ・ 地域のつながりがどうしても減ってしまって、子ども・若者・高齢者などを見守り、声をかける人が少なくならないか心配。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ コロナになってから小学校へ入学した子どもの保護者の横のつながりがつづけていない。 ・ コロナ禍により他人との接触の機会が年々減少していること。
活動	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 感染対策を守りながら、地域活動を行っている。 ・ 若い世代が地域の様々な活動に参加するようになってきた。 ・ 地域の祭りなどコミュニティ活動が盛んで好ましい。 ・ 助け合いグループができた。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 高齢者支援センターが活発化した。 ・ 若い方が積極的に活動している。 ・ まちづくり活動が活発になっている点。 ・ Facebook など地域での情報を多く目にするできるようになった。 ・ 町内会、高齢者支援センター、地区社協、まちづくりの会、児童館、まちとも、小学校が協働して活動することが増えた。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ コロナ禍で自治会総会等、一同に集まる事ができず、情報交換ができない。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 高齢者の引退、若者進出交代が進まない。 ・ 女性達が仕事、仕事に振りまわされ活躍できない。 ・ コロナ禍でお祭りなど地域のイベントができなくなってしまった。 ・ 町内会、地区社協、まちづくりの会のメンバーの高齢化。 ・ イベントが中止になった。 ・ 脱会者が増大していること。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
	・ 地域の子どもたちを地域で育もうという空気が広がってきた。 ・ ゴミ回収置き場の管理が有志の活動で良くなった。 ・ 防災体制が徐々に整備されてきた。 ・ 役員・班長の人数を短縮し少数精鋭の体制が整った。	
場所(施設)	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 新しく「玉川学園コミュニティセンター」ができた。 ・ 2016 年になるが「まあち」ができた。 ・ あんしん相談室ができて、心配事等、話しができる。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ コミュニティセンターが新しくなり、フリースペースが増えたこと。 ・ 玉川学園コミュニティセンターに地区協議会向けのスペースが確保された。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 街の核となるものが、イマイチ不足しているかもしれない。文化センターもよいが、ふらっと立ち寄れるように玉川学園駅附設の駅ビル内に広報スペースがあってもよいと思う。
まち・交通	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 北口(駅)のバリアフリー化。 ・ 南町田グランベリーパークができた。 ・ かわせみが飛んでいる。 ・ 自然豊かな静かな環境。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 道路工事がいっぱい行われるようになった点。 ・ お店でのマルシェなどが開催されていること。 ・ 駅前のコミュニティセンターができ、夜も安心して通ることができる。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 緑・桜の減少。 ・ マナーが悪くなった(ゴミ、たばこ、スマホ等)。 ・ パチンコ店が多い。丸井の隣、パチンコ店がオープンとの事で、良い場所なのに残念。 ・ 過去5年間ではないが、町田駅やカリヨン広場付近、交番はあるが、雰囲気あまり良くない。習い事に子どもが行きづらい。 ・ 道路の問題。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 高齢者宅の庭が荒れていること。 ・ 桜の大木が枯れて減っているのに植樹しないこと。 ・ コロナ禍のため地域商店(特に飲食店・菓子販売店)の来客、売上げが低迷した。 ・ 緑が減った。 ・ 成瀬山の主役を果たしてきた桜の木が枯れ始め淋しくなった。
その他	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 高齢者介護の充実。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 成瀬山緑地が自然との触れ合いでストレスの解消に役立ちました。 ・ 成瀬山緑地でコロナ禍にも係らず、総会、井戸端会議、講演会が開催され、有効活用されました。 ・ 成瀬山緑地でラジオ体操を開始して3年が経過。 ・ コスモス畑や四季折々花木の景観がよかった。 ・ コロナが影響しているが成瀬山緑地での自然との触れ合いでストレス解消に役立ちました。	<2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 権利主張するだけの人が増えてきた。 ・ 駅前のお祭りの際、人目につかない場所で高校生、中学生らしき子たちが飲酒、喫煙をしていたようだという話を聞いた。